



アジャイル品質保証連携 活動紹介

SQiPシンポジウム2026

発表：コニカミノルタ 小野正貴

発足のきっかけ① 2025年2月



三菱電機 細谷氏

ちょっと、教えてください！
(アジャイル経営カンファレンス
で会いました)

Serendieって共創空間で、
アジャイルの話をしませんか？

(同じ悩みを持っている
会社多そうだな...)



富士通 長谷川氏

発足のきっかけ② 2025年4月

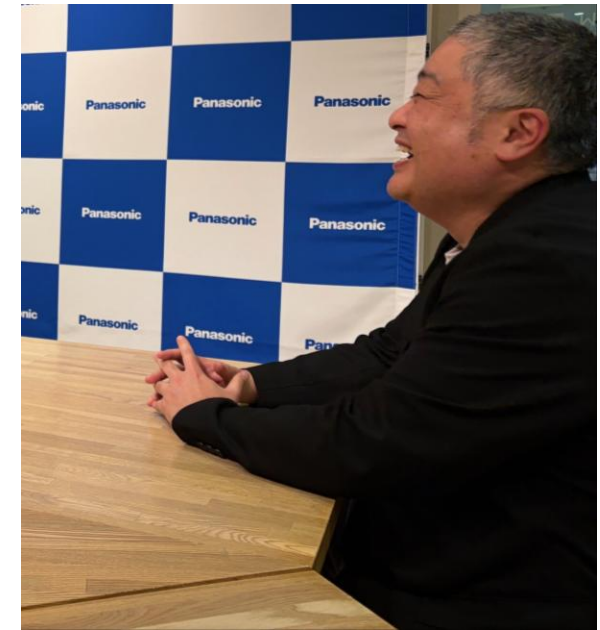


パナソニックコネク ト 服部氏

アジャイル品質保証の
やり方を紹介します。

ぜひ、やってみましょう！

(細谷さんとの話が役立った。
どこも似た悩みがあるな...)



富士通 長谷川氏

発足のきっかけ③ 2025年7月



三菱電機 細谷氏

パナソニックコネクタ社の
取り組みを紹介しますね

QEガイドを作りたいとか同じ...
この取り組みを製造業で
広めていけるといいよね



パナソニックコネクタ、富士通、三菱電機

発足のきっかけ④ 2025年10月



三菱電機 細谷氏

業界共通の課題を解決したい
老舗製造業のみんな集まれ～

来たよ！



キックオフの様子

なぜ集まったのか？

- アジャイル開発が効果的な領域、スピードと品質を両立する方法はある。
- しかし、顧客／取引先／他部署の固定概念とすり合わせていくのは非常に労力がかかる。（なぜ、ウォーターフォールだとスループアスされるのか...）



業界のゆるい合意形成をつくりたい！

「自社だけの独自ルール」ではなく、「他社も認める共通指標（コンセンサス）」であるという事実が、大手製造業にとって最も強い「導入の根拠」になる。

メンバー一覧

参加企業	参加メンバー
三菱電機	細谷、湯川、井芹、内藤、永田、清水
富士通	長谷川、森谷
日本電気	森本、藪崎
パナソニックコネクト	服部、堤、光武、中西
東芝	北川、石井、大森、東井
三菱重工業	通澤、小川
コニカミノルタ	小野
イデソン	誉田

※敬称略

活動内容の紹介

各社の共通認識の形成から着手し、本活動のビジョンおよびコンセプトについて議論した。

#	時期	場所	内容
第1回	10/3	三菱電機Serendie	キックオフ
第2回	12/11	パナソニックコネク ト福岡拠点	インセプションデッキ作り
第3回	2/5	Fujitsu Technology Park	匠メソッド（ビジョン、コンセプトのみの簡略版）
第4回	3/23	三菱重工業 田町タワー	ビジョン・コンセプト具体化
第5回	5/25	東芝総合研究所 イノベーションパレット	一般的な現行プロセスの認識合わせ
第6回	6/15	オンライン会議	SQiPシンポジウムの構成等について相談
第7回	7/17	NEC玉川事業所	SQiPシンポジウムの構成等について相談
第8回	8/19	三菱電機Serendie	SQiPシンポジウムの構成等について相談

※月一回集まり、Miroで情報集約。Teamsチャット/ファイル共有にて非同期で協働。

Vision

- 「モノ売り」から「サービス」へ挑む製造業の新規事業を加速する。
～アジリティと品質を両立する「共通言語」となり、挑戦の足場を固める～
- スコープの明確化：「国内大手製造業」が直面している「モノ売りからサービスへの転換」や「新規事業創出」という文脈を主語に。
- 活動の意義：アジャイル品質保証ガイドが単なるルールブックではなく、不確実な新領域へ踏み出すための「足場（基盤）」であり、組織変革を加速させるエンジンであることを示す。

Concept

1. Bridge of Understanding （相互理解の架け橋）
2. Visible Accountability （確かな説明力）
3. Safety Guardrails （挑戦を守るガードレール）

1. Bridge of Understanding （相互理解の架け橋）

- アジャイル品質の共通言語化
- 狙い：立場で異なる「あるべき姿」を翻訳し、コンセンサスを形成する。
- 説明：開発現場が目指す「速さ・柔軟性」と、品質保証部門が重んじる「安全性・統制」。それぞれの立場において大切にしたい「あるべき姿」や「価値」を、双方が理解できる言葉（共通言語）で定義する。これにより、感情的な対立やすれ違いを防ぎ、「ビジネスの成功」という共通の目的に向かって建設的に協働できる関係性を築く。

2. Visible Accountability（確かな説明力）

- 顧客と社会に対する「説明責任」を、負担なく果たす武器
- 狙い：文書作成の工数ではなく、論理の強さで信頼を勝ち取る。
- 説明：「なぜそのやり方で品質が良いと言えるのか」という問いに対し、アジャイル特有の文脈で論理的に答えるためのロジックとエビデンスの型を提供する。これにより、営業や広報は自信を持って顧客に説明でき、監査部門や経営層は従来の重厚なドキュメントがなくとも、プロセスの透明性によって安心を得ることができる。

3. Safety Guardrails（挑戦を守るガードレール）

- 「ゲート」から、最高速で走り抜けるための「ガードレール」へ
- 狙い： 検査のための停止をなくし、開発の流れの中で品質を作り込む。
- 説明： 従来の品質保証が、工程の最後でリリースを止めてチェックする「関所（ゲート）」だったのに対し、本ガイドはプロセスの中に組み込まれた「ガードレール」として機能する。コースアウト（重大事故）を防ぐ仕組みがあるからこそ、開発チームは新規事業という未踏のコースにおいても、ブレーキを踏まずにアジリティを最大限に高めて走ることができる。



Appendix

活動の様子①

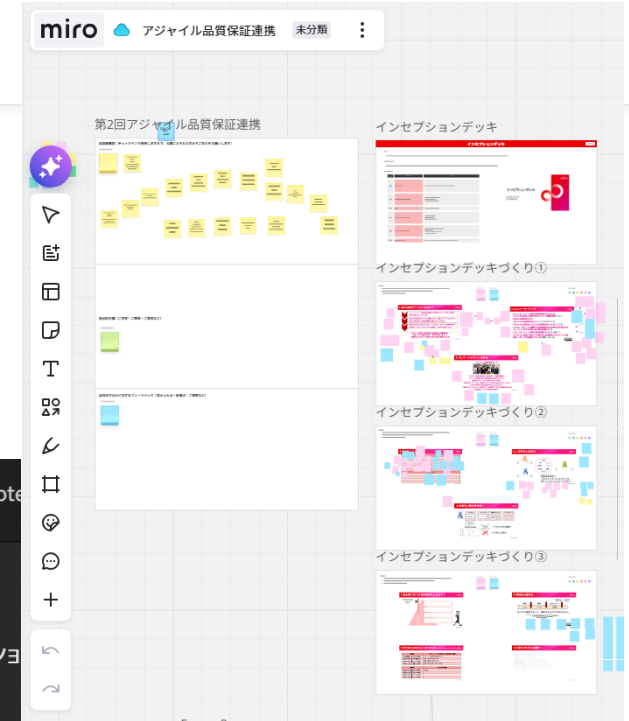


Gア 002_ディスカッション 投稿 共有済み Note

第2回会議アジェンダ検討スレッド

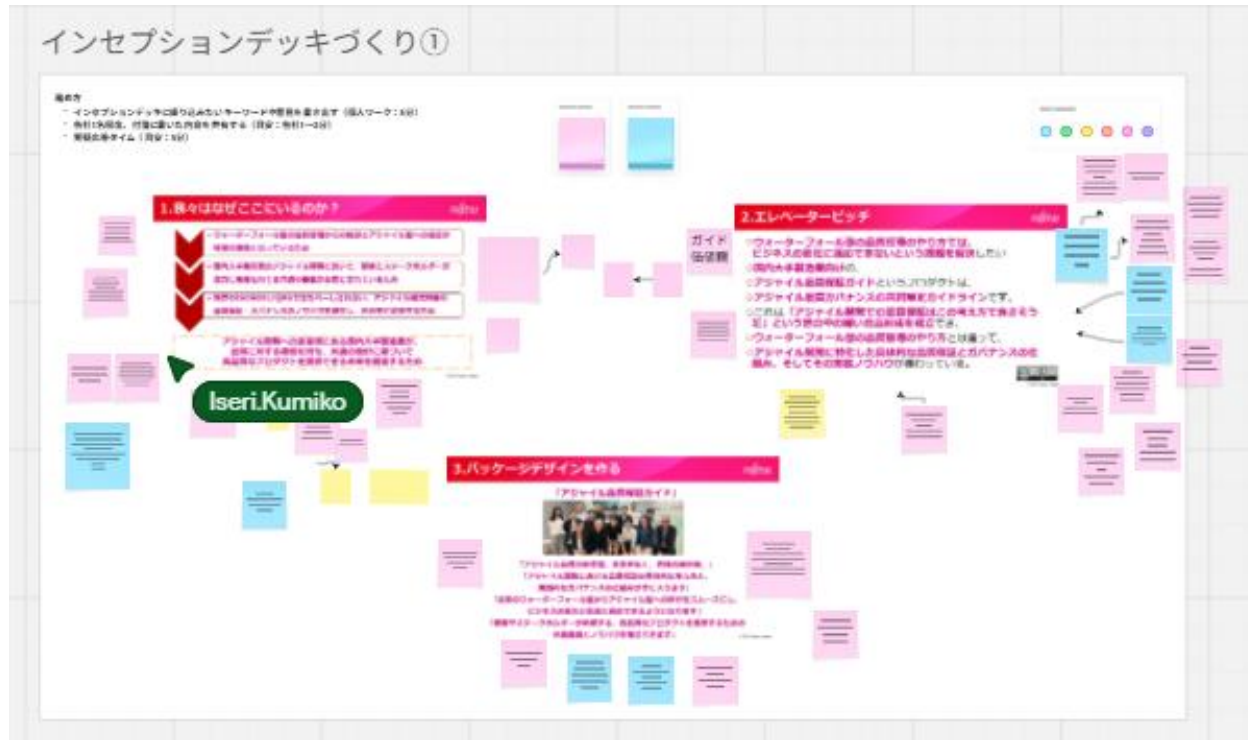
[tag_aq_fujitsu002_ディスカッション](#)
第2回会議のアジェンダ検討スレッドを立てます。インセプションデッキを共有させていただきます。

- (1)議論のアジェンダは先に送付した会議資料の通り。
- (2)議論の対象とする範囲を決める必要がある。
- (3)開催は各社のオフィスで実施する。次回はパナソニックコネクトさん（福岡）、時期は11～12月で調整
- (4)本活動自体をアジャイルに回していくこととして、最後に大きなガイドラインを出すのではなく、頻度良く成果をリリースしていく



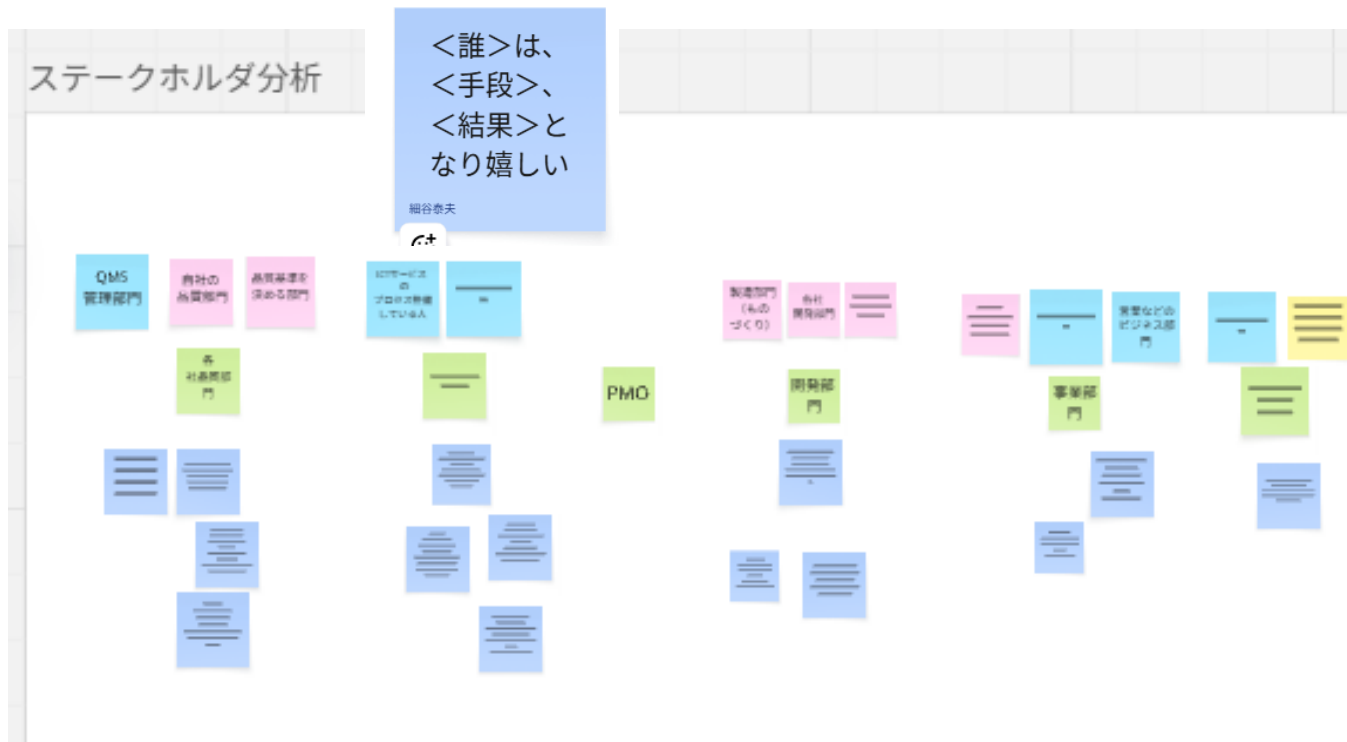
※月一回集まり、Miroで情報集約。Teamsチャット/ファイル共有にて非同期で協働。

活動の様子②



「この活動自体もアジャイル的に
やりたいよね」ということで、
インセプションデッキ作りを通じ
て参加企業の共通認識を作ること
から始めました。

活動の様子③



ステークホルダー分析等により、誰にどんな価値があるのかを具体化し、ビジョンとコンセプトにつなげた

- アジャイル・品質保証の取り組みは社内で合意を取る必要がある
- じゃあ、どんな人と合意が必要なのか？（相手にも価値があるのか）

※匠メソッドのステークホルダ分析、価値分析、価値デザインモデル（ビジョン、コンセプトのみの簡略版）を実施